

平成28年度 外部講師活用事業（特色ある学校づくり）実施報告書

宮城県蔵王高校 ICT 学習指導小委員会

1. 外部講師活用事業の活用にあたり ～本校のこれまでの ICT 利活用の取組～

本校では平成26年度より、教育情報化推進リーダーを筆頭に各教科1名ずつで構成される『ICT 学習指導小委員会』を設けて ICT 教育に取り組んできた。これまで、県外視察や校内研修、県の ICT 利活用授業力向上プロジェクト事業への参加などを通して、ICT に対する意識の向上が見られ、ノート PC やタブレットを利活用した授業実践に取り組む教員が増加した。また、平成27年度から外部講師活用事業を活用し、本校での取組や授業に対する指導主事からの指導・助言の一つ一つを取組の目標や指針とした。この事業の活用は今年度で2年目となるが、平成28年度は ICT の利活用を新たに始めた教員の授業力向上を主な目的として取り組んだ。

2. 研修会・講習会の名称

- 1 回目 (2016. 8. 31) ICT 機器を利活用した授業力向上の研修会
- 2 回目 (2016. 11. 10) ICT 機器を利活用した公開研究授業
- 3 回目 (2017. 1. 24) ICT 機器を利活用した授業力向上の研修会

3. 講師の所属・役職と氏名

- 1 回目 (2016. 8. 31) 宮城県総合教育センター専門教育班 主幹 加藤進一
- 2 回目 (2016. 11. 10) 宮城県総合教育センター専門教育班 主幹 加藤進一
- 3 回目 (2017. 1. 24) 宮城県総合教育センター専門教育班 主幹 加藤進一

4. 日程

- 1 回目 (2016. 8. 31)
 - 9:20～9:45 打ち合わせ
 - 9:55～10:45 研究授業 (英語科 多田裕行 英語表現Ⅱ)
(国語科 豊島健弘 古典B)
 - 10:55～11:45 研究授業 (保健体育科 野田ともみ 保健)
 - 11:55～12:45 研究授業 (国語科 豊島健弘・高橋梨奈 国語表現 TT)
 - 13:30～14:20 研究授業 (家庭・福祉科 矢木リサ 生活支援技術)
 - 14:30～15:20 研究授業 (国語科 高橋梨奈 国語総合)
 - 15:45～16:30 指導・助言

- 2 回目 (2016. 11. 10)
 - 12:20～12:45 打ち合わせ
 - 12:45～13:35 公開研究授業 (英語科 門脇美雪 コミュニケーション英語Ⅰ)
(国語科 豊島健弘・高橋梨奈 小論文 TT)
(数学科 尾形祥平 数学Ⅰ)
 - 公開授業 (理科 小野正美 生物基礎)
(理科 大越貞人 生物基礎)
(保健体育科 野田ともみ 保健)
 - 14:05～14:30 指導・助言

3回目 (2017. 1. 24)

- 9 : 20～ 9 : 45 打ち合わせ
- 9 : 55～10 : 45 研究授業 (家庭・福祉科 矢木リサ 生活支援技術)
- 10 : 55～11 : 45 研究授業 (地歴・公民科 遠藤道夫 現代社会)
(保健体育科 野田ともみ 保健)
- 11 : 55～12 : 45 研究授業 (数学科 北松茂 基本数学α)
- 13 : 30～14 : 20 研究授業 (英語科 水戸朋之 コミュニケーション英語Ⅰ)
- 14 : 30～15 : 20 研究授業 (保健体育科 加藤浩志 保健)
- 15 : 30～16 : 20 指導・助言

5. 研修会・講習会の内容

- ①授業実践者への評価と指導・助言
- ②ICT 機器のより効果的な使い方
- ③教育現場における ICT の今後

6. 研修内容

昨年度と同様、県教育総合センター専門教育班の加藤進一指導主事に3日間のべ15名の教員の授業を見ていただいた。今年度は特に、ICT 機器を新たに活用し始めた教員を中心に参観していただいたが、指導主事から ICT 機器の効果的な活用方法への具体的な改善策などの御指導・御助言をいただき、今後の取組への参考になった。また、昨年度から授業を複数回見ていただいた教員は、ICT 利活用の変化の過程などの観点から、今後へ繋がる具体的な御指導・御助言をいただけた。

7. 今後に向けて

今年度は、多くの教員に授業において ICT 機器の利活用を実践し、利活用率を上げることを目標として取り組んできた。加藤進一指導主事による3回の御指導の他に、ICT に対する意識を向上させるために先進的な取り組みを行っている学校の視察に行く機会をつくった。視察者は先進的な取組に接し、中心となって取り組んでいる他校の教員との話し合いなどを通し、ICT 教育への意識の向上がみられた。このような様々な取組を通し、ICT 機器の利活用率も少しずつ上昇した1年であった。現在では、プロジェクターやスクリーン、常設教室の確保が課題である。また、次年度以降はこれまでの取組の他に、『アクティブラーニング』に目を向け、本校の機器環境で可能なアクティブラーニングを取り入れた ICT の利活用について研究していきたい。

以上のような現状を踏まえ、来年度の計画案を以下に記す。

- ① 外部講師の依頼
外部の方からの指導・助言は授業改善や授業力向上に結びつくため、来年度も外部講師を招いての研究授業を企画・立案する。
- ② 先進校視察 (県内外)
アクティブラーニングと ICT との両立を積極的に実践している学校への視察を計画する。
- ③ ICT 機器の充実化
予算の問題もあるが、機器環境の充実は利活用率向上に欠かせない要素のため、教員用タブレットや機器常設教室などを増やし、タブレット以外の機器の持ち運びがなくとも ICT を用いた授業ができる教室環境を少しずつ整備する。



(1 回目の研修会 平成 28 年 8 月 31 日実施)



(2 回目の公開研究授業①
平成 28 年 11 月 10 日実施)



(2 回目の公開研究授業②
平成 28 年 11 月 24 日実施)



(3 回目の研修会 平成 29 年 1 月 24 日実施)